保育構想案

奈良教育大学附属こども園
教諭 辻 夏苗

1. 活動名　ダンゴムシっておもしろい！

2. 子どもの姿と読み取り 2歳児りす組（男児３名 女児３名 計６名）８月１日時点

・遊び始めには、したい遊びの方へ保育者の手を引いて自分のしたいことに保育者を誘ったり、保育者のいるところに集まってきて一緒に遊んだりしている。時折、「先生見て」と保育者に伝えて、少し離れたところにいる保育者に見守られながら遊びを楽しむ姿も見られるようになってきた。保育者と一緒にいることや保育者に見てもらうことが嬉しく、保育者がいることで安心して遊べるようである。

・自分からしたい遊びを見つけて遊び始めることもあれば、保育者や友達のしている遊びを見て遊び始めることもある。友達と物や場所の取り合いになる姿も見られるが、保育者の援助を受けながら、「貸して」と伝えたり、友達が貸してくれるまで待ったりする姿も増えてきている。遊び始めるきっかけは場面や子どもによって様々であるが、自分のしたいことで遊ぼうとする思いが強くなっているようだ。

・りす組の子どもたちや保育者が捕まえたダンゴムシをトレーに入れて保育室で飼育している。ダンゴムシを見つけて嬉しそうに保育者に知らせたり、ダンゴムシを繰り返し見て大きさや模様の違いに気づき始めたりしている子どももいる。一方で、自分でダンゴムシに触れることには抵抗があり、保育者に「取って」「見せて」などと頼んでいる子どももいる。ダンゴムシへの興味の程度や触れることへの抵抗感には個人差がある。

3. めざす子どもの姿

〇身近な生き物に興味をもって関わる子ども
〇生き物と共にいる喜びを感じる子ども

4. 活動のねらい

〇ダンゴムシの面白さや不思議さを感じ、興味をもって関わろうとする。（知識および技能の基礎）
〇繰り返しダンゴムシに関わり、ダンゴムシの姿かたちや動きに関心をもつ。（思考力・判断力・表現力の基礎）
〇ダンゴムシと関わることを喜ぶ。（学びに向かう力・人間性等）

5. 評価規準

知識及び技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性等
① ダンゴムシの面白さや不思議さを感じている。 ② ダンゴムシに興味をもって関わろうとしている。	① 自分から繰り返しダンゴムシに関わろうとしている。 ② ダンゴムシの姿かたちや動きを見ている。	① ダンゴムシと関わることを喜んでいる。

6. 環境構成

〇活動の設定理由

・ダンゴムシに興味をもち、毎日繰り返し観察している子どもがいる。

・触れることには抵抗があっても、「捕まえたい」「箱に入れたい」と思って、保育者にしてほしいことを伝えている子どもがいる。

・ダンゴムシをじっくりと見て動きや大きさに注目している。

→ダンゴムシへの抵抗感や関わり方に個人差はあるが、興味や関わろうとする意欲が徐々に広がってきている。ダンゴムシをきっかけに身近な生き物への興味をさらに広げたり、生き物の多様性を感覚的に捉えたりしていってほしい。

〇教材について

・1学期に大学構内の散歩に行き、ダンゴムシを探してそれぞれのお散歩バッグに入れる経験をした。ダンゴムシは子どもたちにとって身近な存在である。

・虫は動くため、2歳齢の子どもたちにとって興味をもちやすい対象である。

・ダンゴムシは、土を湿らせておくことに注意すれば、比較的飼いやすく、繁殖もしやすい虫である。

〇展開の工夫

・保育室内でダンゴムシを飼育することで、子どもが生活の中で自然とダンゴムシに目を向けて関わりやすいようにする。

・底面積の広いパントレーで飼育することで、ダンゴムシが動く様子や姿かたちをじっくりと見たり、複数の子どもが同時にダンゴムシに注目したりしやすいようにする。

・落ち葉や石、湿った土など、ダンゴムシが好む環境を用意し、自然な生活の姿が見られるようにする。

7. ESD との関連

〇活動を通して養いたい ESD の視点

・多様性：ダンゴムシによって大きさや模様が違うことや、ダンゴムシならではの動き方をすることに気付き、興味をもったり不思議に感じたりする。

・相互性：ダンゴムシの土を湿らせるとダンゴムシが活発に動き出すことや、日が経つとダンゴムシが大きくなったりいずれ赤ちゃんが生まれてきたりすることなどを感覚的に捉える。

・連携性：保育者がダンゴムシに親しみをもって関わったりダンゴムシの環境を整えたりしているのを見て、自分も関わろうとしたりやってみようとしたりする。

〇活動を通して育てたい ESD の資質・能力の基礎

・つながりを尊重する態度：ダンゴムシと関わり、さらに身近にいる他の生き物にも関心を寄せる。
ダンゴムシが大きくなったり、赤ちゃんが生まれたりするという命のつながりを感覚的に捉える。

・進んで参加する態度　：ダンゴムシを見たり、ダンゴムシに触れたりして繰り返し関わろうとする。
ダンゴムシと関わることを喜ぶ。

〇ESD で育てたい価値観の基礎

・自然環境・生態系の保全の尊重：ダンゴムシをきっかけに、生き物に関心を寄せる。ダンゴムシに触れる経験を通して、力加減を調整して触ったり、生態を知ったりする。生き物を大切にしようと思う。

〇達成に貢献できる SDGs

・15 陸上資源

・16 平和・公正

8. 構想と展開

じっくりと見る

あ、いた！

これ（大きいダンゴムシ）はめっちゃ大人やで

あ、動いた

ダンゴムシ、足いっぱい

保育者の環境構成と援助

・保育室内でダンゴムシを飼育することで、自然とダンゴムシに目を向けて関わりやすいようにする。

・底面積の広いパントレーで飼育することで、ダンゴムシが動く様子や姿かたちをじっくりと見たり、複数の子どもが同時にダンゴムシに注目したりしやすいようにする。

・ダンゴムシが好む環境を用意し、ダンゴムシの自然な生活の姿が見られるようにする。

・保育者もダンゴムシに興味をもって一緒に探したりじっくりと見たりすることで、子どもも安心して関われるようにする。

意識したこと

子どもがじっと見ている時間に保育者が影響しすぎず、

でも先生がいるから安心してじっと見ることができる

という関わりの距離感。

触れる

手に乗せたら
こしょばいなぁ

（ダンゴムシを
つまんで）
あれ?動かない

保育者の環境構成と援助

・子どもがダンゴムシと関わって自然と発した言葉に応じたり共感したりし、それぞれの感じ方でダンゴムシと関われるようにする。

・ダンゴムシに実際に触れる経験を通して、強くつまむとダンゴムシが弱ってしまうことや、手のひらや指先に乗せて見る方法があることなどに気付けるようにする。子どもの行動を見守りながら、行動によって起こったダンゴムシの変化を言葉にして伝えたり、保育者が適切な触れ方を示したりする。

意識したこと
生き物を触る力加減は、実際に触れて経験することでしかつかめない。子どもたちが適切な力加減を感覚的に理解したり、力加減を調整する必要を感じたりするための援助を行う。

◎その後の実際の子どもの姿

・誰かが虫を見つけると…他の子どもたちも集まってくる

見せて!

かわいいー!

赤トンボ!

・虫や生き物を見て…虫や生き物の気持ちを考えたり、身近な人に置き換えて捉えたりする

おーい！クモさんどこに行くの？

大きい声出したらクモさんびっくりするんちゃう？

（虫かご）揺れたら虫さんしんどいんちゃう？

（虫かご）置いてみたらしんどくならへんかなぁ

（歩くシカを見て）ママに会いたいんかな

（3 頭のシカを見て）パパ、ママ、ぼくみたいね